

鹿大広報

No.156

April/2001

編集・発行

鹿児島大学

広報委員会



特集：“21世紀を担う”

<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>



新入生諸君へ（ちょっと辛口の祝辞）

歯学部長 大工原 恭

諸君は21世紀前半の日本を担い、かつ確実に今世紀中にその生涯を終える人達です。しかし、今年から始

まった21世紀の世の中が今後どのようなのか、正直なところ私には分かりません。前世紀（20世紀）が始まった日本は明治34年であり、日露戦争（1904年2月から1905年9月）の開戦前の騒然たる世の中であったようですが（当時のことは、司馬遼太郎の「坂の上の雲」を読んで下さい）、その頃の人達は、携帯電話やインターネットで情報があふれる今の世の中を想像出来たのでしょうか。20世紀の当初は、モールス信号による無線通信がようやく実用化された頃なのです。従って、諸君が担うであろうこれからの半世紀がどのようなのか、誰にも確実なところは予想出来ず、世の中の変遷に沿って、その都度諸君の柔軟な頭脳とフットワークにより対処してもらう他ありません。それには、これからの大学生活を如何に過ごし、人間を磨くかにかかっていると思います。

以上は一般論ですが、歯学部に入學した諸君には、私の不確実な予想も加えて、これから6年間の大学生活を如何に送るべきか述べておきたいと思います。

歯学部とは、単に虫歯の治療と入れ歯を作製する歯科医師を養成する所と誤解されがちです。また、一般に歯科医師になるためには、手先の器用なことが必要条件のようにいわれています。しかし、歯科医学が技術中心であったのはもう過去のことです。これからの歯科医療従事者には、他の分野にも増して幅の広い教養と、それに裏打ちされた豊かな人間性、確かな倫理観がまず要求されているのです。それには、自分で勉強し、考えることが必要です。サークル活動は大いに結構ですが、サーク

ル活動に溺れてしまうのは、大学生本来の道から外れていることをまずはっきり認識して欲しいと思います。

高齢化社会が進みつつある我国では、今後ますます高齢の、かつ何らかの全身疾患（例えば高血圧や糖尿病）を持つ患者さんが多く歯科医院を訪れるようになると考えられます。従って、諸君はこのような患者さんに対してもその全身疾患を理解した上で、きちんとした歯科医療を行い得る歯科医師でなければなりません。歯学部では、それに配慮したカリキュラムを編成し、かつその改良に毎年努めているところですが、諸君もその重要性を認識し、きちんと理解して正しい知識を身につけるよう努力して欲しいと願っています。

また、歯科医学分野での予防医学はまだ緒についたばかりですが、今世紀にはこの分野での大きな進展が期待され、これに伴い歯科医師の需要は減少することも考えられます。従って、歯科医師の間での競争は今よりさらに激しくなり、歯科医師間での自然淘汰が進むものと思われます。しかし、歯科医師が全く不要になるとは考えられません。諸君は、このような競争に生き残れる、高度な知識と技術を持つ歯科医師である必要があります。もともと、予防医学が進んだ一般医学の分野では、高齢者人口が増したため、かえって医師の需要が増える傾向にあります。従って、歯科医学の分野でも予防歯科医学が発展すれば、かえって歯科医師の需要が増えることになるかも知れません。このあたりは、現時点では予測出来ないところです。

いずれにしても、諸君にはまず歯科医学の修得に必要な基礎学力を身につけ、歯科医学に積極的に取り組む意欲と、将来優れた歯科医師、あるいは歯科医学研究者・教育者になるのだというはっきりとした目的意識を持って、勉学に励んでくれるよう期待しています。